

別紙標準様式（第7条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	平成29年度 第2回 枚方市スポーツ推進審議会
開 催 日 時	平成30年1月17日（水） 午後 2時00分から 午後 3時30分まで
開 催 場 所	枚方市市民会館 第1集会室
出 席 者	会長：高見委員 副会長：木村委員 委員：荒木委員、岩井委員、齊藤委員、佐藤委員、谷口委員、 寺西委員、浜田委員、福島委員、村島委員
欠 席 者	委員：西邨委員
案 件 名	1. 開会 2. スポーツを通じた高齢者の健康づくり、居場所づくり 3. その他 4. 閉会
提出された資料等の 名 称	○参考資料 高齢者を取り巻く現況
決 定 事 項	・会議録は、郵送及びメール等で確認すること。
会議の公開、非公開の別 及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表 の別及び非公表の理由	公表
傍 聴 者 の 数	0人
所 管 部 署 (事 務 局)	教育委員会社会教育部 スポーツ振興課

審 議 内 容

1 開 会

高 見 会 長： 挨拶

それでは最初に、本日の出席委員と傍聴者の報告とあわせて資料の確認等を事務局よりお願いしたい。

事 務 局： それでは、本日の出席委員を報告する。

本日の出席委員は、12名中10名に出席いただいている。枚方市スポーツ推進審議会条例第7条第2項に規定する2分の1以上の出席を満たしており、この会議が成立していることをご報告する。また、本日の一般傍聴者はいない。

資料の確認

高 見 会 長： 前回の審議会で、委員の皆様の一つのテーマに対し審議する審議会の開催を提案したところ、「スポーツを通じた高齢者の健康づくり、居場所づくり」というテーマで審議することに賛同いただいた。今日は、このテーマについて審議したい。

2 スポーツを通じた高齢者の健康づくり、居場所づくり

高 見 会 長： それでは、案件審議について事務局より説明願いたい。

事 務 局： 参考資料に基づき説明

- ・高齢化は今後も進行
- ・高齢者は家族や仲間と接することを生きがいとしている

高 見 会 長： スポーツ推進計画の中では、年代別のスポーツに対する意識や運動習慣について調査されているが、生活習慣や身体状況等が多様化している。そのため、高齢者のスポーツを審議する際に、一概に年代別で括ることはできない。

論点について、整理させていただく。

- ・高齢者の中でも中程度の運動に取り組んでいる方
- ・健康やスポーツへの関心は高いが、取り組み方がわからない方
- ・運動やスポーツへの関心は低いが、健康への意識は高い方
- ・運動や健康への関心が低い方

本日は、「運動やスポーツへの関心は低いが、健康への意識は高い方」に焦点を当て、議論できればと思う。

議論に入る前に一つ話題提供をしたい。スポーツに関心が低い層を引き込むために、新規事業を立ち上げるのは難しい。そこで、既存の制度

をスポーツの観点から見ていく必要があると考える。枚方市の「高齢者しっとこサイト」を見たところ、高齢者スポーツとタイアップできそうな施策が多くある。例えば、「ひらかた元気くらわんか体操」は3つの体操効果があり、一つ目は「ラジオ体操第1」、二つ目は「ロコモ体操」、三つ目は「ひらかた体操（枚方市オリジナル体操）」が行われている。枚方市民の方はご存知なのか。

谷口委員： 行政が取り組んでいる「元気づくり・地域づくりプロジェクト」には、「体力づくり、元気づくり」「参加活躍、集いの場」「暮らしのサポート」という三つの柱があり、柱の一つの「体力づくり、元気づくり」が紹介のあった体操である。ひらかた体操が昔からあり、ラジオ体操とロコモ体操を取り入れた経緯がある。今はコミュニティを通じて普及を図っている。知ってる方は多くいると思う。

高見会長： サイトを見ると体操実習の申込先が枚方体育協会になっている。枚方の体育機関と福祉分野が連携している事例の一つである。スポーツと福祉がタイアップしていけば、スポーツ分野から、家に閉じこもっている方に取組を展開していくことも可能である。他にも、福祉分野では健康相談や講演会等が行われている。こういう機会にもスポーツと医療が関わっていければと思う。

他には、「高齢者居場所づくり事業」では、介護が必要な方だけではなく、介護予防の観点からも高齢者の居場所となる拠点をつくると、行政から助成がある。スポーツや運動の視点から、拠点づくり、もしくはは拠点に関わっていければ取組に幅が出てくる。

あと、「ひらかた生き生きマイレージ事業」では、介護保険施設等でサポーターとして活動した方にポイントを付与している。サポーターはポイントを貯めると商品券等に交換できる。スポーツ分野でも、市民の方が、健康づくりのボランティアに関心をもつきっかけとして、インセンティブを利用すれば参加しやすくなるかもしれない。

新しい仕組みをつくるよりも、他分野とのタイアップを考えながら既存の仕組みを進めると、活動に幅がでてくる。

論点を整理し直すと、「運動やスポーツへの関心は低いが、健康への意識は高い方」をどのようにスポーツに引き込むか、意見を集約できればと思う。

浜田委員： ウォーキングは、費用がかからず、人集めも必要なく自分の時間のできるので行いやすいと思う。しかし、地域には出不精の方が多くいる

のも知っている。広報をみてイベントに参加する人は、最初からスポーツが好きの人だけである。校区で行っているいきいき広場では、新しい方が5名から6名ほど来てくれる。なぜかというと普段参加している人が声かけしてくれる。中には、取組に興味をもってそのまま継続して参加してくれる方もおり、簡単にできることや興味のあることから参加してもらえればと思う。少しずついろんな種目を広めていければと思っている。

谷口委員： 老人クラブ連合会では、210のクラブがあり会員が12,800人ほどいる。スポーツでは、グラウンドゴルフが一番盛んである。大会には、350人近く参加がある。卓球も人気があるが、場所と道具に課題がある。最近では、カーリンコンが普及していくと思う。場所はフローリングがあればでき、お金もかからない。お年寄りも身障者もできる。ウォーキングは、昔は人気があったが、今では、参加者を60名ほど集めるのがやっとである。他には少しマイナーだが、スポーツ吹き矢を3団体行っているが、設備費に課題がある。手っ取り早く参加者を増やすならグラウンドゴルフかカーリンコンという現状である。

スポーツ以外でいうと、ちょっとした軽食や趣味のサークルには、興味のある人が集まってくる。参加しやすい環境を作ることが大切である。

高見会長： 今日、このテーマで何か結論を出すことは考えていない。皆さんの立場で意見を出していただければと思う。

福島委員： 私はよく広報に目を通し、イベントがあれば参加している。高齢になると、イベントに参加するきっかけを掴めない人もいると思う。仲間からの声かけがあれば参加するという方にとっては、広報が一つのきっかけになる。ネット環境が整っている高齢者がまだまだ多くない中、既存の取組に参加者が増えるよう、広報をより活用していく必要がある。

佐藤委員： イベントに障害者がどれだけ参加しているのか。大阪府で開催している大会等にヘルパーと遠征した場合、サポート人員がいるのか。障害者も高齢化しているが、健常者と一緒にスポーツを行っていくにはどうすればよいのか。福祉関係部署で取り組んでいるスポーツに関する取組を今後も縦割りで行うのか。こういった問題にも取り組んでいただきたい。

高見会長： 障害者も高齢化が進むことで、スムーズな動きが難しくなる可能性もある。今後考えていく必要があるテーマである。

木村副会長： スポーツを行ってどれほど健康になったかという評価は大切である。

「ひらかたカラダづくりトライアル」では、抽選で関西医科大学の健康チェックを受けられるクーポンを獲得するチャンスがある。インセンティブに健康チェックを組み込むのは良いことだと思う。

最近では、認知症の予防に運動が取り上げられている。単に健康というよりは、認知症というワードを出せばもっと高齢者の気を引けるかもしれない。

スポーツをすでにやっている方についての話になるが、枚方市には高齢者のアスリートがおり、全国大会で活躍されておられる方が多くいる。そういうトップ選手のメディカルサポートを充実することで、よりやる気を引き出すことができる。

浜田委員： スポーツをしている間だけ認知症の症状が緩和される知人がいる。

木村副会長： アルツハイマー予防に対する有効性もわかってきている。認知症は高齢者の最大の課題である。認知症予防に興味をもっている人は多い。

浜田委員： 高齢者にスポーツに参加してもらうことが大切だ。

荒木委員： 高齢者がスポーツに取り組んでいない理由として、「特に意識したことがないため」というのが一番多いという説明があった。70年間スポーツ習慣のない方がスポーツを始める可能性は低い。70代から身体向上に取り組むモチベーションは低く、身体面の機能だけを訴えても高齢者の関心は低い。心への働きかけを行っていく必要がある。参考資料のデータから、高齢者が楽しみを感じている項目は、家族や仲間、近所との交流に関する項目しかあがってきていない。一方で、健康づくりのための活動に対しては、高齢者の関心が低いのが顕著にわかる。データから理解できることは、居心地の良い家族や仲間、近所の方と時間を過ごすことが、有効で、楽しみで、興味のあること、ということである。町内会、自治会の活動に対する関心は低く、その活動を強化するのは難しい。

結果的には、インセンティブを利用しつつ、ボランティアの方や地域の若者等に、高齢者が居心地良いと感じる空間に働きかけにいてもらうことが理にかなっている。同居は少なく、核家族が多くなっている中、長期のスパンで世代間交流ができる事業を考えるのも一つかと思う。

浜田委員： 地域ボランティアにしても、スポーツにしても、40代もしくは50代から携わっている人がほとんどで、60代から始める人は少ない。今までスポーツ習慣の無い70代の方に働きかけていくには、考え方を整理する必要がある。

高見会長： Jリーグサッカークラブのコーチが、介護予防のため派遣されていると聞いたことがある。アスリートを抱えている見地からなにかあるか。

村島委員： 今まで、高齢者のスポーツとあまり接点が無かった。地域のイベントにボランティアで参加する機会があるが、選手が行くと喜ばれる。試合前に選手や子どもと、高齢者が歩く機会を作る等、少しずつでも、若者と高齢者の接点を増やすことができればと考えている。そういう機会は意識的に作らないとできない。チームを応援してくれれば、試合を観に来てくれる。試合会場でのイベントを通じ、運動に関心を持ってもらえるかもしれない。

木村副会長： 運動を行うことはハードルが高くても、会場に出ていくことが第一歩となる。

浜田委員： いきいき広場で、子どもと高齢者が一緒に行く、グラウンドゴルフ大会の開催を企画している。別のスポーツへの足がかりとしていければと思っている。

齊藤委員： スポーツ推進委員は、地域のスポーツ振興のために委嘱している。スポーツ推進委員協議会から様々な提案をしているが、委員の出席者が少なく、地域に持ち帰ってもらえてない。ここ数年間では、ニュースポーツの発信の場も少ない。イベントに参加するメンバーも固定化しており、対策については考えて行きたい。

高見会長： 枚方市には、レクリエーション関係の団体はあるのか。

事務局： レクリエーション協会があったが活動を休止し、一つ一つの団体が個別に活動している。

高見会長： 日本レクリエーション協会が、福祉レクリエーションの指導者を育成し、高齢者に日常生活の質を高めていく中で、健康に関心をもってもらうという取組を進めている。

10年以上前になるが、小野市の地域包括支援センターとタイアップし、手遊びのような身体活動から始めて、外出を促進するという取組をしたことがある。枚方市にそのような取組を進める団体があるのかと思い聞いた。

岩井委員、スポーツ少年団の中で家族や高齢者とのつながりはあるか。

岩井委員： 活動をしている中、自分の孫をみて、高齢者が大きな声で応援してくれる。大きな声で応援することは、健康に良いと思う。場所も地域の学校であり、近くて来やすい。

高見会長： 「みるスポーツ」の関わりは、どうしてもプロスポーツに目がいきがちであるが、子どもや孫のスポーツを観て楽しむことは重要だ。近くの小学校や地域のスポーツ公園では、座るところがなく観る環境が整っていない。ちょっとしたベンチ等を用意し、身近なところで「みるスポーツ」を広げていければと思う。

寺西委員、学校現場と高齢者のつながりはあるか。

寺西委員： 学校の生徒と現実的なつながりは無いように思う。地域のボランティアに参加する機会についても、高校生であれば考えられるが中学生ではあまり無い。

職場体験学習で福祉施設に行く機会はあるが、あくまで生徒が勉強させてもらいに行っている。

佐藤委員： 視覚障害者への理解を啓発するため、人権の勉強の中で中学校や小学校に行かせてもらっている。卓球をしたりボール投げをしたりするが、そういう場を提供してもらえれば、障害者との関わりを学んでもらえる。高齢者との関わりも、そういう場を提供できれば関わりは作ってける。

高見会長： 事務局にお聞きしたい。全庁的に各部署の取組を話し合えるような場はあるのか。

事務局： 審議会を行う前には、庁内委員会で話し合う場をもっている。

高見会長： 高齢者の生活の質を高めるために、スポーツ分野はどう関われるか福祉分野と話し合う場をつくることは可能なのか。

事務局： そういう場を部署間で調整することは可能。

浜田委員： 要支援の元気広場の関係で、校区によってメンバーは異なるが地域包括支援センター、ソーシャルワーカー等を交えて話し合いを行っている。スポーツ関係の取組はまだ少ないが、各校区で様々な取組が広がっている。

佐藤委員： その中に障害者という観点も含めていただきたい。障害者は人数が少ないので、地域まで出向くことは難しいかもしれないが、受け皿となる側の観点からは忘れないで欲しい。

浜田委員： 学校には車椅子が無い。

寺西委員： 学校は一番バリアフリーが遅れているところであると思う。

高見会長： 高齢者のスポーツを考えると、幅が広いと一つの間で完結させることは不可能である。全市をあげて、話し合える場を作っていただきたい。そういう場があれば、市も活性化していくと思う。

3 その他

高見会長：事務局から何かあるか。

事務局：特にございません。

高見会長：それでは、他に事務局から連絡事項はあるか。

事務局：平成29年度の審議会は本会で以上となる。本審議会の会議録だが、郵送及びメール等でご確認をいただきたいと考えている。連絡事項は以上である。

高見会長：それでは、これを持って平成29年度第2回枚方市スポーツ推進審議会を閉会します。皆さまお疲れさまでした。ありがとうございました。